

祭 越 夏

災息招福 無病除災

(七月二十九日)



岡田宮夏越祭 ごあんない

岡田宮

— (宝永四年) 一七〇七年 貝原益軒書 —

平成十一年七月二十九日 午後六時〜九時
(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。

大祓神事 午後六時より

どなたでも参加できます。参列の方には大祓詞をさしあげます。ふるってご参加ください。

当日ご参拝の方に

■「お札」と「茅」を授与いたします。

魔除けとして玄関に奉斎して下さい。

■無病息災・除災招福御神酒接待

ご参拝の方に御神酒をご奉仕いたします。

■総当たり福引き・

かき氷・わた菓子

地元青年会の屋台がたちます。

いづれも一回100円



無料券

当日この券をご持参下さい。
福引き・かき氷・風せんつりの
いづれか1回が無料になります。



第四回岡田神社書道展

○会期

平成十年七月二十五日(土)

三十一日(金)まで

○表彰式

平成十年七月二十九日(木)

○出品展数

七五〇点

◎岡田宮賞

- 小一 櫻井 加織
- 小二 櫻井 寛子
- 小三 増田はるか
- 小四 下村理菜子
- 小五 櫻井 聖子
- 小六 原田 友絵
- 中一 池田 絢
- 中三 藤田 周子

◎総代会長賞

- 小一 今西 陽香
- 小二 遠藤 怜子
- 小三 永松 実花
- 小四 横山 愛
- 小五 神原 梨香
- 小六 櫻井建太郎
- 中一 渡海 恵美
- 中二 前田 愛佳

◎特別賞

- 小一 池田美和子
- 小一 本田 祐
- 小二 櫻井 嗣也
- 小二 木下末沙都
- 小二 井手 宏美
- 小三 古川 茜
- 小三 池田 香織
- 小三 川内 宏美
- 小二 武末 沙季
- 小三 冨田 博文
- 小三 大木 美樹

◎金賞 二〇三点

- 小三 岡本翔太郎
- 小四 和合 真理
- 小四 木下 静香
- 小四 中山 史蘭
- 小四 古本 優
- 小四 中道恵里奈
- 小四 岩淵 遙
- 小四 角 実怜
- 小五 中村 桜子
- 小五 尾山 貴洋
- 小五 谷 美渚子
- 小五 林 康史
- 小五 吉村 悠貴
- 小五 吉田 光佑
- 小六 高橋 梓
- 小六 中山 陽馨
- 小六 山本 暁子
- 小六 山本 ユミ
- 小六 植嶋 理恵
- 中一 村上 純
- 中一 広渡 紫乃
- 中一 古本紗耶佳
- 中三 村中 勇太
- 中三 池田 真夕
- 中三 能島 昌子
- 中三 高尾 碧花
- 中三 山下真裕子
- 小四 山鹿 晃平
- 小四 松田 拓海
- 小五 上野 真司
- 小六 片山 和羽
- 中一 佃 寛介
- 中二 花田 眸
- 中三 天野 弥里

◎奨励賞



郷土地名考

(27)

若松 (わかまつ)

門司や小倉、戸畑の地名起源には各説があるのに、若松はとも簡単だ。稚松とも書いたから、若い松の多いところだったので若松という推論がひとつ。しかし若い松もいずれ老松になる。川土手に老松の並木があったので老松(おいまつ)という門司の町名はうなずけるが、若い松しか生えていないというのは植生からも考え難い。

また若松恵比須神社の縁起では神宮皇后に従った武内宿禰が「松の一面に緑をなし青々たる海原の滄溟たる我心若し」と言ったのに由来して、後の世の人が若松と名付けたともいう。

いずれも「若い松」にこだわって合成しているのである。松の当て字には紛らわしいのが多いという。

若松は全国にあるが、よく知られているのは会津若松市で、戦国大名・蒲生氏郷が藩主として入国、鶴ヶ城を築き、城下町を整備して若松と命名した。近江の名勝地、若松の森に由来するという、要するにこれは鶴

に松という瑞祥地名なのである。
 こんな風に命名のいわれが明らかだと子孫も悩まずにすむ。こっちの若松みたいに後世の人が命名したというだけでは無責任だが、まあ瑞祥地名ということでは会津若松と五十歩百歩だろう。

洞海湾 (どうかいわん)

洞海の初見は日本書記の仲哀記にある。熊襲征伐の条で神功皇后が「洞海(くきのうみ)より入りたもう、潮かれて得進まず」と出ている。この「くき」は植物の茎のように細く入り組んだという意味らしい。縄文時代、遠賀川や洞海湾は地図上の等高線で5〜10メートルぐらい海進があったというから、かなり入り組んだ地形だったと想像はできる。筑前統風土記には「久岐等」(くきと)。久岐の意はくき同様。いま若松で計画中の「久岐の浜ニュータウン」はこれにちなんでいる。また洞海湾が満潮になると、岡の湊(芦屋)に水漏(くき)出ずるためという説もあるが、ドウカイイなど思われる。

紀貫之「つくしなる大わたり川おほかたは我ひとりのみ渡る浮世か」とあり、大渡川という表記もあって、昔は大川とも理解されていたらしい。

七五三

七五三祭は、子どもの成育にともしない折り目、折り目に神社にお参りして、いっそうの息災成長を祈る行事です。三歳の祝いを髪置、五歳の祝いを袴着、七歳の祝いを紐落などと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しませんが、ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。なお、平成十一年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

- 三歳 平成九年生
 - 五歳 平成七年生
 - 七歳 平成五年生
- ※年齢はかぞえ年で
 ※毎日午前九時より午後五時まで
 受付をしています。



神社 問答

(その27)



◆ 御道 いる處

祝宴などの手締めには、どのような意味があるのですか。

すが、これは双方で値段などの話し合いの結果、無事に交渉が成立したことを意味します。

拍手とは賞賛や喜びを表わす万国共通の表現であり、我が国では「魏志倭人伝」に、貴人に対する敬礼の所作として記されています。このことは神社参拝に際して、神様に対しておこなう拍手として、現在も受け継がれています。

一方「古事記」では、雄略天皇が一言主大神に捧げ物を献上した際に、大神が手を打って受け取られたとあり、本居宣長はこの手打ちを物を得て歓喜する様子であるとしています。

古い神社のお祭りによっては合拍手(あわせはくしゅ)と言って、勅使(天皇陛下の使者)が奏上した御祭文を、宮司が受けて御神前に納める際に、宮司の拍手の後に勅使と宮司が合せて拍手をします。これは双方において授受の確認を表わす作法であるとも言われております。

地域によって、一本締めや三本締めなどさまざまな流儀がありますが、お互いの意志を確認し、一致団結を図っていくために、古くから伝えられてきた大切な生活習慣であると言うことができます。

手締めとは、物事の落着や無事な決着を祝っておこなう拍手のことであり、取り引きや和解などが成立した際に、双方が揃って手締めをすることを手打ち式とも言います。

神社の酉の市では、露店商と熊手を求めた人とは、掛け声とともに手締めをおこないま

神社総代研修会

三月三十一日 晴。

片田一夫総代会副会長以下四十五名を乗せたバスは佐賀県神埼郡神埼町鎮座の櫛田宮に向け

て出発。

途中、吉野ヶ里遺跡を見学。

神社に到着後正式参拝。

お祓いの後、執行宮司様の講

話を拝聴させてもらい

ました。年三回の祭典

には氏子崇敬者総出で

参加し、たいへんな賑

わいを見せるそうです。

神社の近くの旅館で

昼食後、神埼そうめんの

工場を見学。あいにく

工場は改装中で、そ

うめんをたくさん購入

しました。

今回も多くの神社関

係の研修をしてまいり

ましたので、今後の神

社運営に反映してい

たいと思います。

心

奮闘

奮闘なるかな 奮闘なるかな

奮闘をはなれて休養なく娛樂なし

命がけの奮闘

血の汗が滴る全身全霊の緊張

その間に感ずるえもいわれぬ

奮闘の妙味

片々たる区々たる小娯楽は

語るにたらず

奮闘を離れて向上なく充実なし

立つも倒るるも死ぬるも生くるも

貫行

人間の特権なるかな

なんでもい

善と信じたことを

ただ一つでも続けてみよ

何がつづいているか

三年

五年

十年

つづいたことがいくつあるか

一事を貫きうる力が

万事をつらぬく

楽しい雰囲気・明るいスタジオ

(株) 有川写真館

岡田宮内にスタジオ完備

宮参り、七五三など

撮影時、衣裳無料でお貸ししています。

☎ 0120~62~2080

写真館

PePe

北九州プリンスホテル、ベベ2F
インドアプール前にオープン

各種衣裳取りそろえております。

☎ 0120~620~753